CHALLENGE the FUTURE!

チャレンジ企業検証

株式会社 徳永装器研究所
代表取締役　徳永修一 氏
（宇佐中央支部会員）
宇佐市大字大根川318　TEL 0978-33-5595　FAX 0978-33-5596
http://www3.coara.or.jp/~tokuso/

徳永修一 代表取締役

大分県ビジネスグランプリほか多くの受賞歴をもつ、介護・福祉・医療機器の開発メーカー

画期的な発明品が満載のカタログ

21世紀を迎え、ますます重要度を高めてきた福祉医療関連分野。株式会社徳永装器研究所は、福祉医療機器の技術集団として期待が集まるベンチャー企業です。

大手電機メーカーの開発・技術部門に従事していた徳永修一代表取締役は、郷里である宇佐へUターン後、かねてから関心をもっていた障がい者の医療機器製作に関わる研究を重ね、起業の機会をうかがっていました。そして、福祉の現場の実態把握などを進めていくうちに知り合ったのが「ALS（筋萎縮性側索硬化症）患者の会」です。同会の発足にあたり技術支援の依頼を受けた徳永社長は、患者や福祉医療関係者と接しながら、まずは電機メーカー時代に培ったセンサー技術を中心とした製品の開発に着手していきました。

最初に開発した機器は、障がい者の意思伝達装置です。会話が不自由な重度障がい者のために、目のまばたきから生まれる動き、唇、舌、額のしわの動き等を電極に反応させ、ナースコールを可能にしたタッチセンサースイッチを開発。このほか取り付けたチューブに軽く息を吹き込むことで作動するスイッチ、手のひらを乗せて電極部を指で軽く触れるだけで操作できる機器、手の重心の移動で操作するスイッチなど、多岐にわたって次々と画期的な新製品を開発していきました。

パソコン支援機器・周辺機器を用いた、コミュニケーションをサポートする機器も需要が多い製品です。足の操作でクリックやドラッグができるマウスや、舌でカーソルの移動を行って唇でクリック操作するマウス、キーボード不要で簡単に文字入力ができる機器等、マウスやキーボードの操作が困難な障がい者のための機器の開発は、数え上げればきりがありません。

自動痰吸引器「アモレSU1」

介護福祉の現場を考慮した機種も評判です。離床通報器「おきナール」はベッドから降りるときに足下に設置したマットを踏むとスイッチが入る仕組みになっており、 認知症で徘徊する老人対策として実用化されたものです。

このように、それぞれのユーザーの身体状況にあわせ、キメ細かな対応を施してきた同社の姿勢は、その開発力と技術力に加え、業界での高い評価を確立していきました。

「ほとんどの製品は現場の医師やナース、介護者からの声をベースにしてアイデアを出し合い、製品化させています。私自身が直接患者さんと接することも多く、現場に密着した製品開発が当社のモットーです」（徳永修一代表取締役）

そして平成18年、第3回大分県ビジネスプラングランプリ最優秀賞を受賞したのが、自動痰吸引器「アモレSU1」です。これは、人工呼吸器を使用する患者に向け、気管内の痰による気道閉塞事故を防止し、本人と介護者の負担を軽減するための機器。痰を持続的に吸引、除去するこの発明は世界初のもので、大分協和病院など医療の現場でも反響を呼び、患者家族や医師も製品化に向けての協力を申し出てくれました。その後、薬事法の承認も受け、現在は大手医療機器メーカーとの事業提携も進行しており、販路拡大も期待されています。

「特殊な製品で大きなヒット商品にはなりにくいですが、これからの福祉・医療の現場で必要とされるもの。今後も困っている人たちの要望に応えるため、ものづくりへの情熱を傾けたい」

徳永社長の熱い想いが伝わってきました。